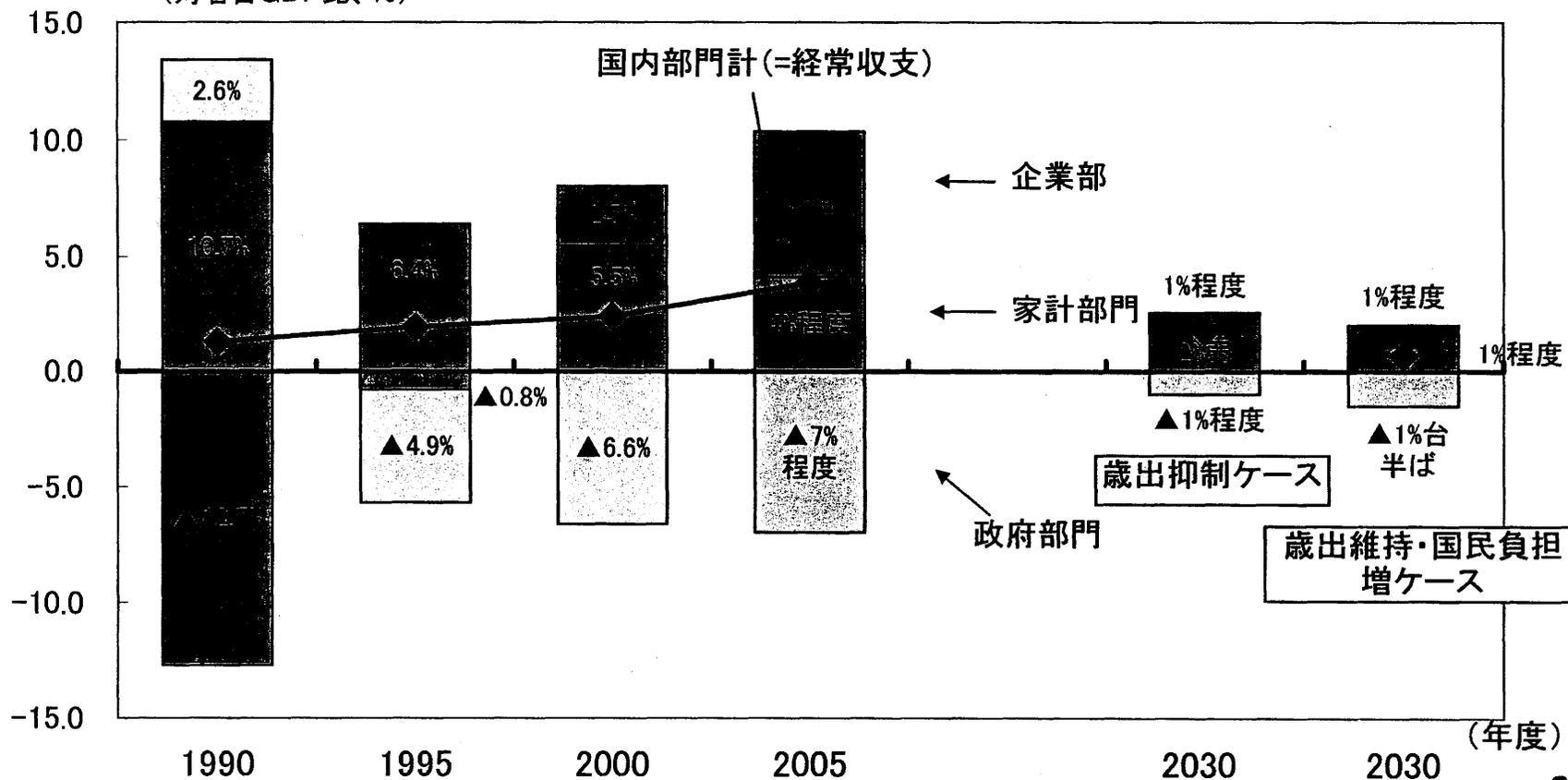


## 貯蓄投資バランスの展望

家計部門と企業部門の黒字(貯蓄超過)が縮小する一方で、政府部門の赤字(投資超過)も縮小

(対名目GDP比、%)

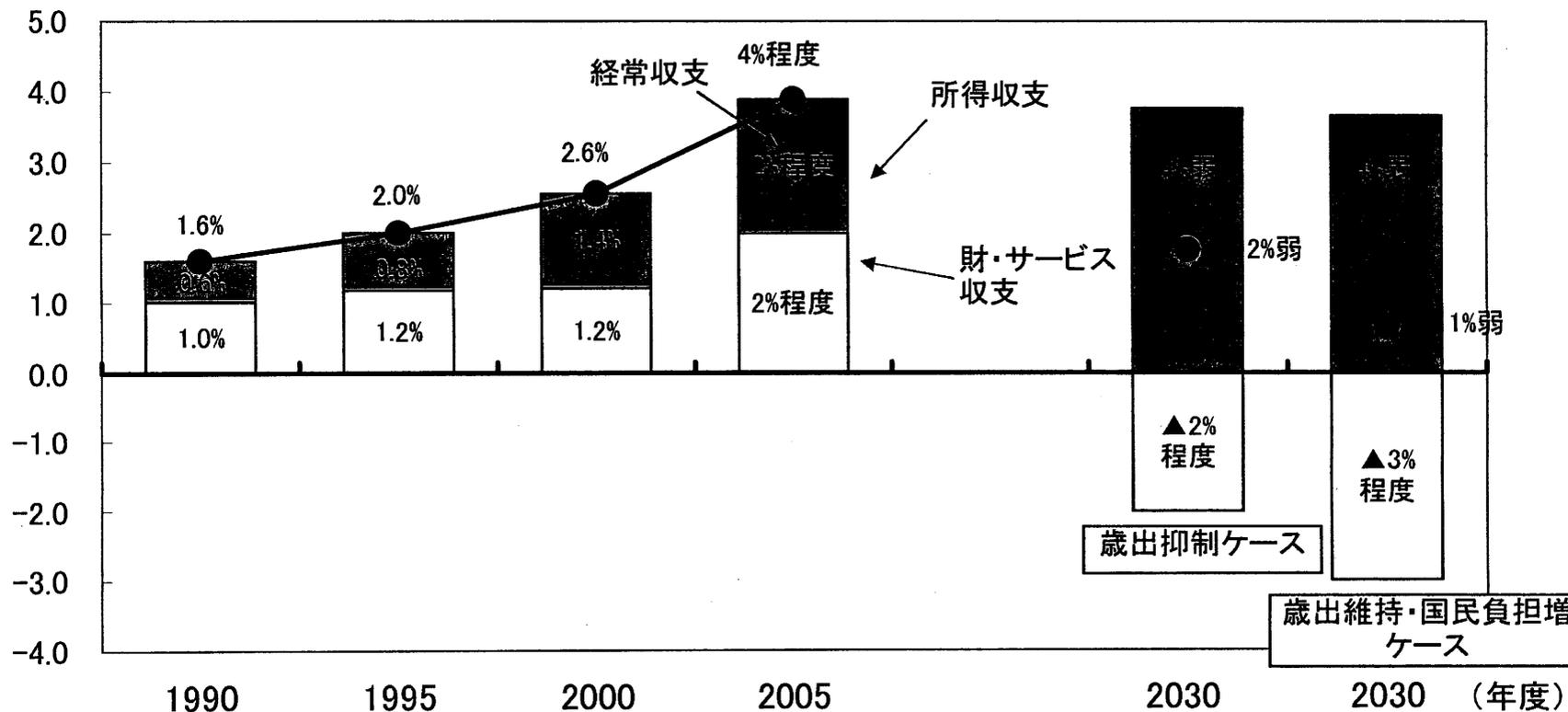


(注) 国内部門全体(家計、企業、政府)としての黒字は、対外バランスである経常収支黒字に一致する。

## 経常収支の展望：グローバルな「投資立国」へ

財・サービス収支は赤字に転じるものの、所得収支の黒字が拡大し、経常収支は黒字を維持

(対名目GDP比、%)



- (注) 1. 経常収支 = 財・サービス収支 + 所得収支  
 2. 所得収支とは、海外との利子・配当、労働所得等の受け払い。

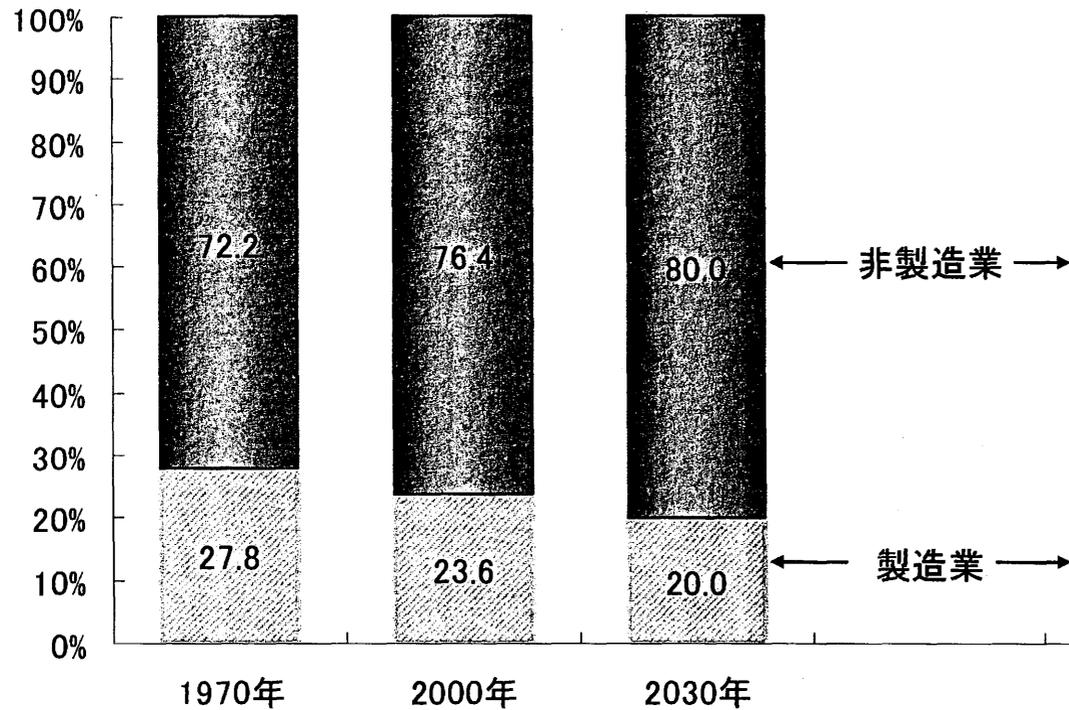
# 2030年の産業構造の姿

**製造業**  
高い生産性の伸び、労働節約的

**非製造業**  
所得水準が高まる中、サービス産業の需要は拡大

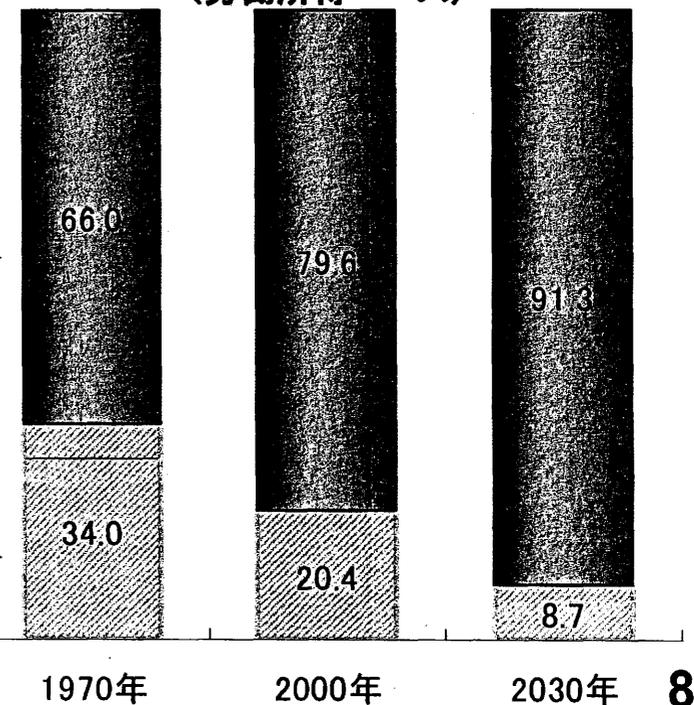
- 産業構造のサービス化は引き続き進展
- 製造業の労働シェアは低下

産業別GDPシェアの変化



産業別雇用シェアの変化

(労働所得ベース)



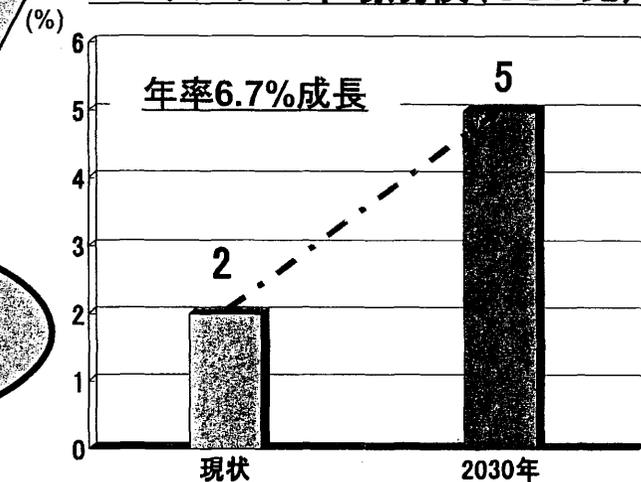
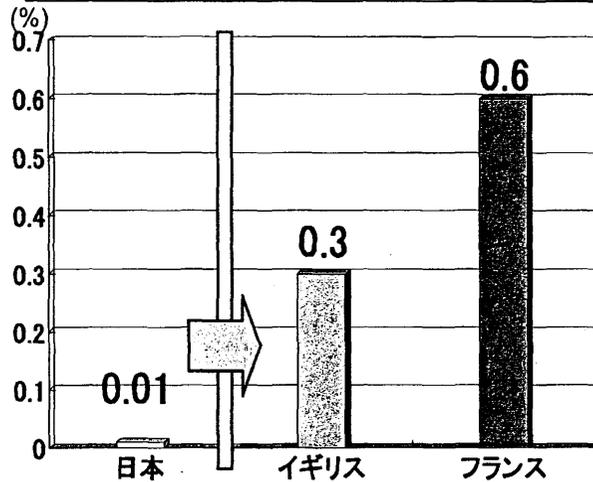
# 2030年の生活・文化創造産業

世界に向けたファッションのトレンドを発信

コンテンツ市場はアメリカ並みへ

衣料品輸出のGDP比は先進国並みへ

コンテンツの市場規模(GDP比)



日本の生活スタイルがブランドとして確立

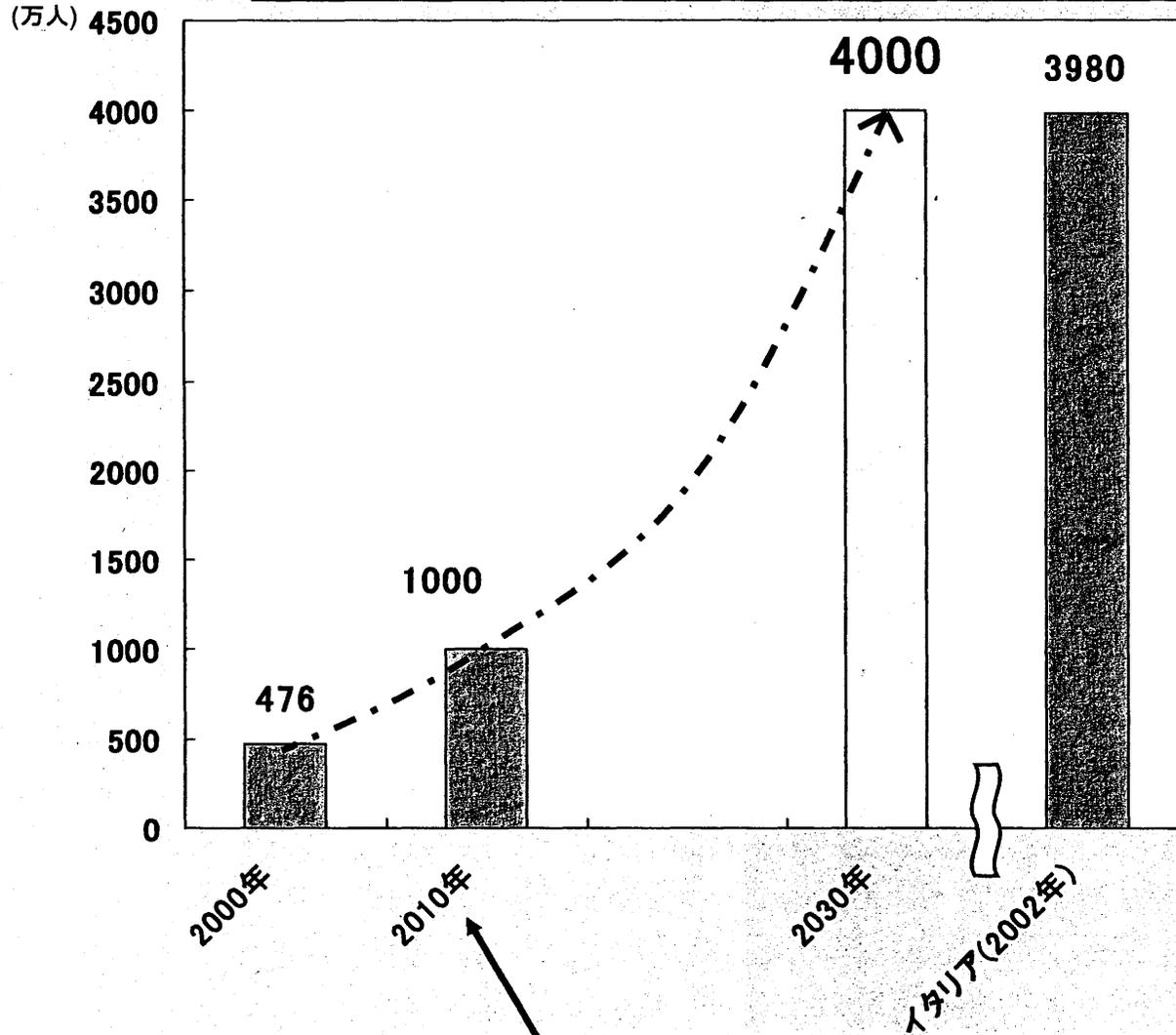
織物、家具、木工など  
伝統的手工業も海外  
で再評価

日本の生活文化の魅力に惹かれて、世界から優秀な人材が集まる

日本食は健康、安全、美味しい、で世界に浸透

# 2030年の訪日外国人旅行者4000万人

世界中の人々が「訪れたい、働きたい、住みたい」と思う壁のない国  
2030年の訪日旅行者数は4000万人も可能



## ○2010年迄の訪日外国人旅行者の倍増目標

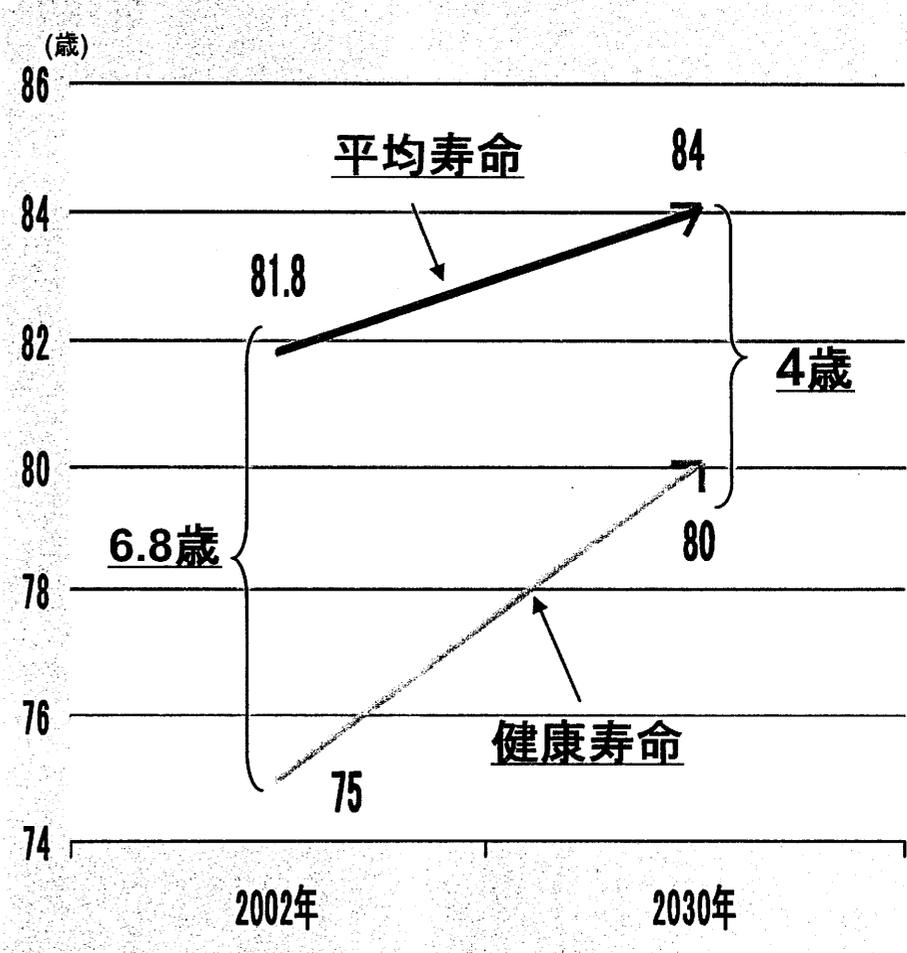
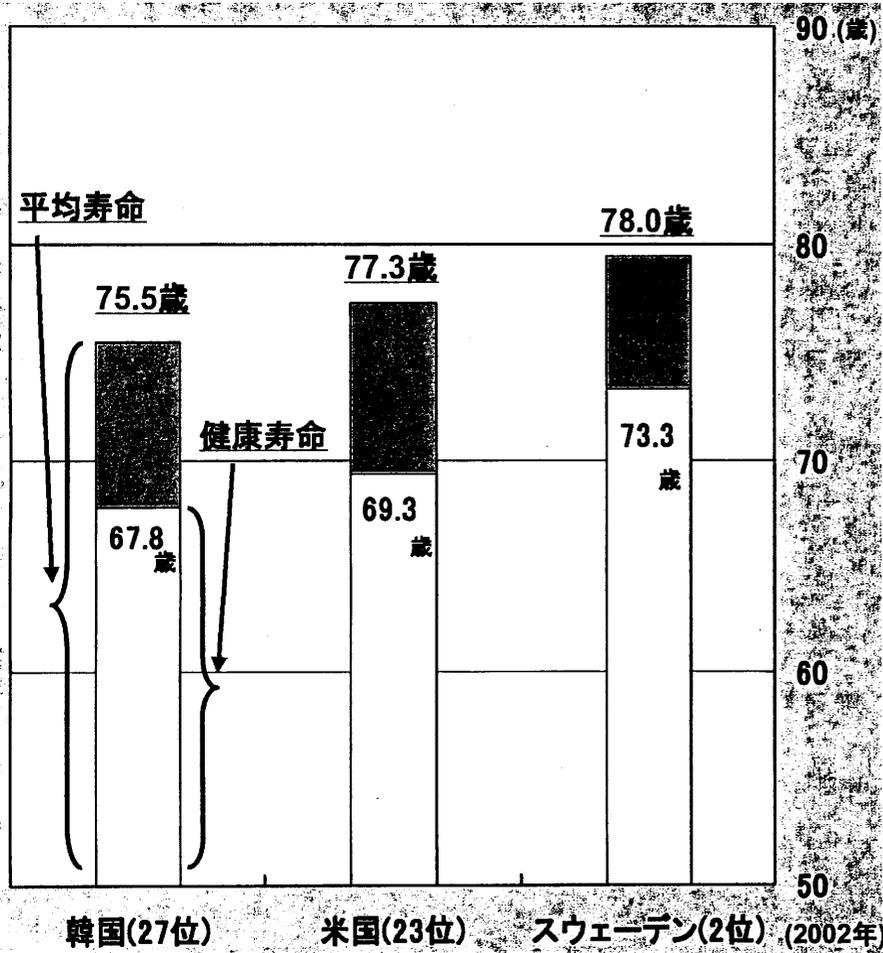
「現在日本からの海外旅行者が年間約1600万人を超えているのに対し、日本を訪れる外国人旅行者約500万人にとどまっています。2010年にこれを倍増させることを目標とします。」

(2003年1月31日:  
小泉総理施政方針演説)

(※)2004年は、614万人

# 2030年には健康寿命80歳

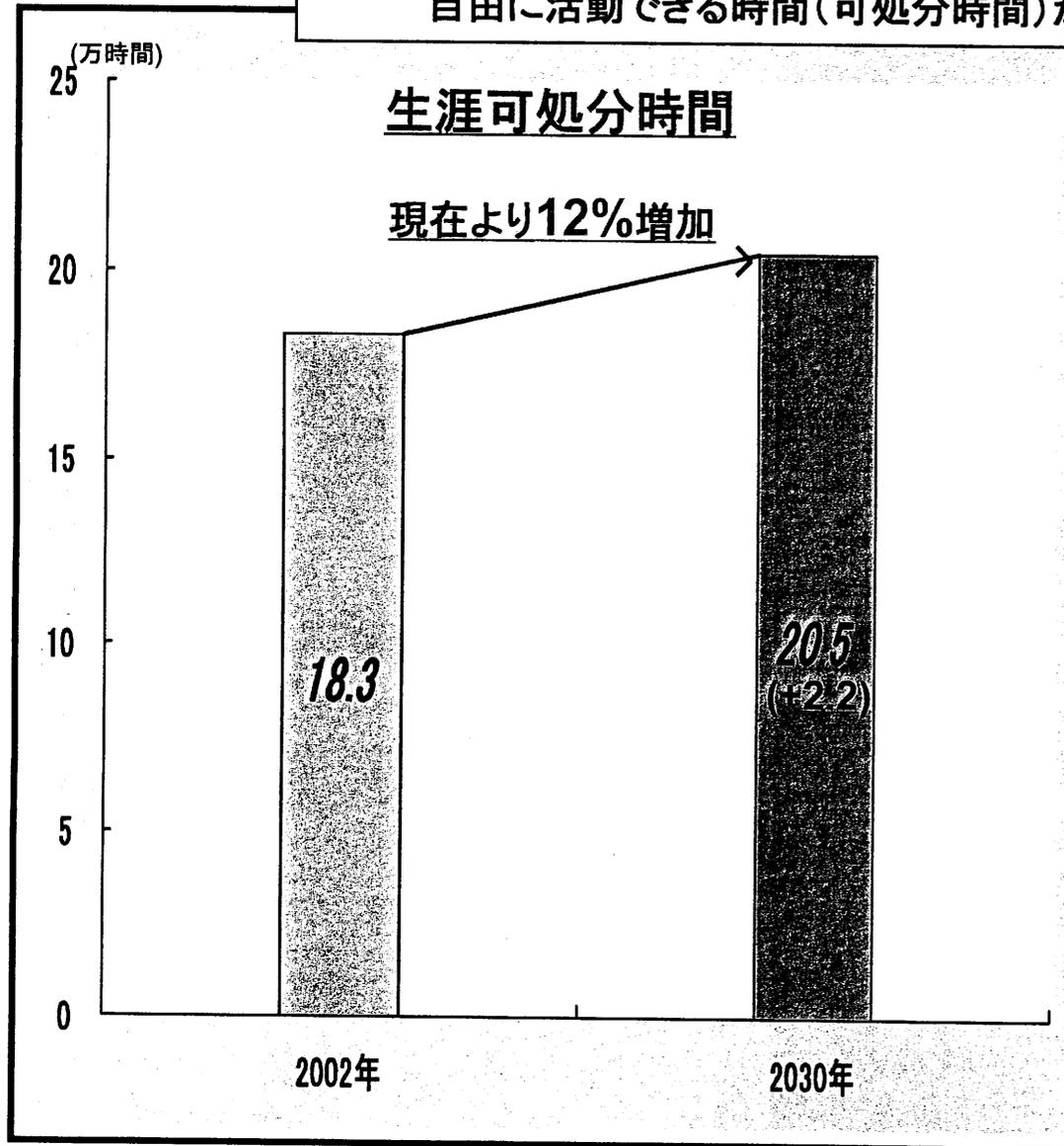
平均寿命と健康寿命の差をちぢめて、現在の75歳から80歳へ健康維持と病気の予防に重点



(注) 健康寿命とは、生活と健康の質を考慮して心身共に健康で自立している期間。健康をいかに定義するか、どのようなデータにもとづくかという課題はあるが、世界保健機関が行った推計がある。

# 2030年には1割以上の「時持ち」

健康寿命の伸びや働き方の多様化などにより、自由に活動できる時間(可処分時間)が一割以上増える



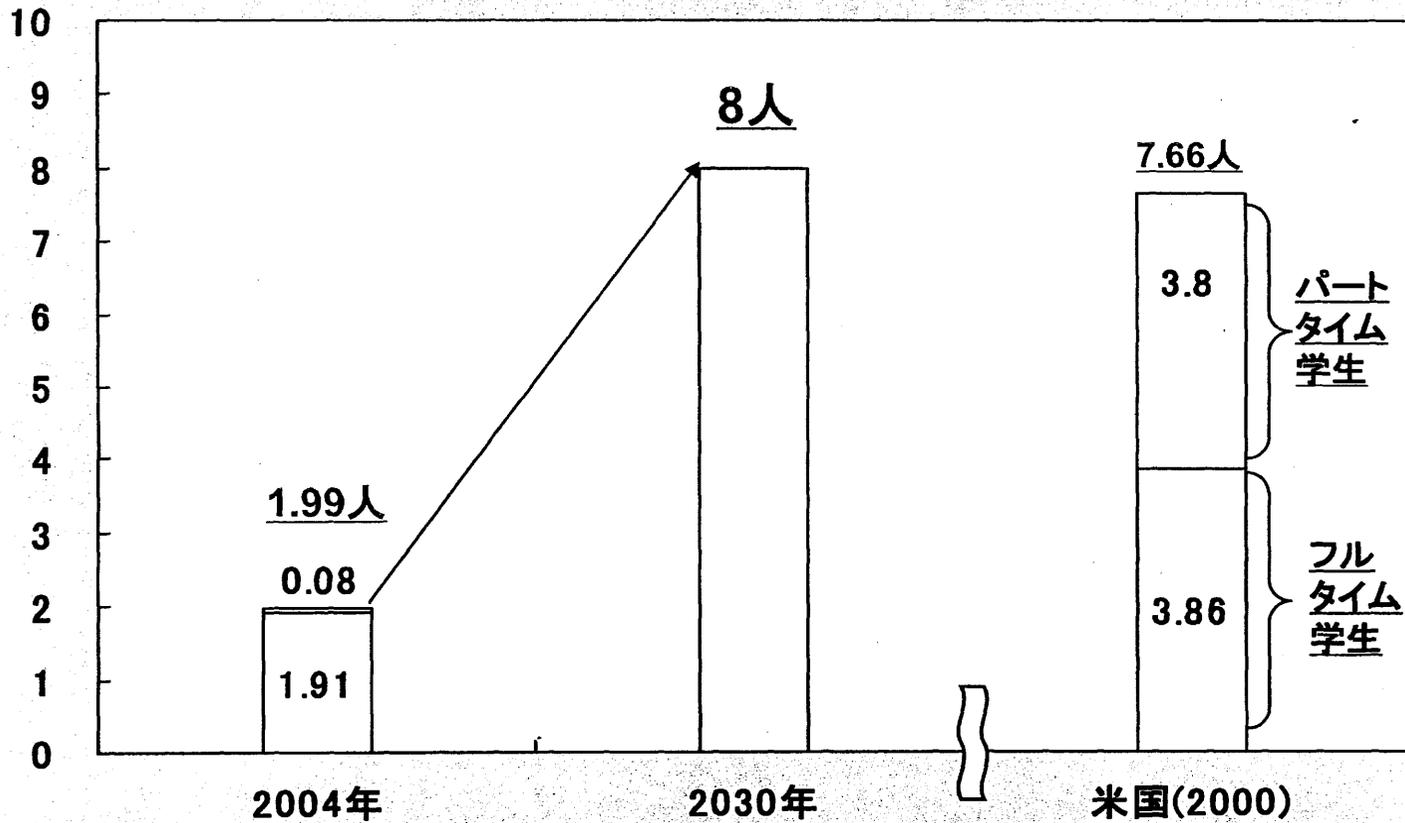
## 〈試算の仮定〉

- 健康寿命が延長
- 61～65歳労働時間はパートタイマー並みの短時間労働
- 社会人になってから大学院等へ2年間在学

# 2030年の大学院在学者は現在のアメリカ並(8人/千人)も

多様な就業形態、生涯二転職四学習を前提とした制度設計などにより、パートタイムやフルタイムの大学院生が増加

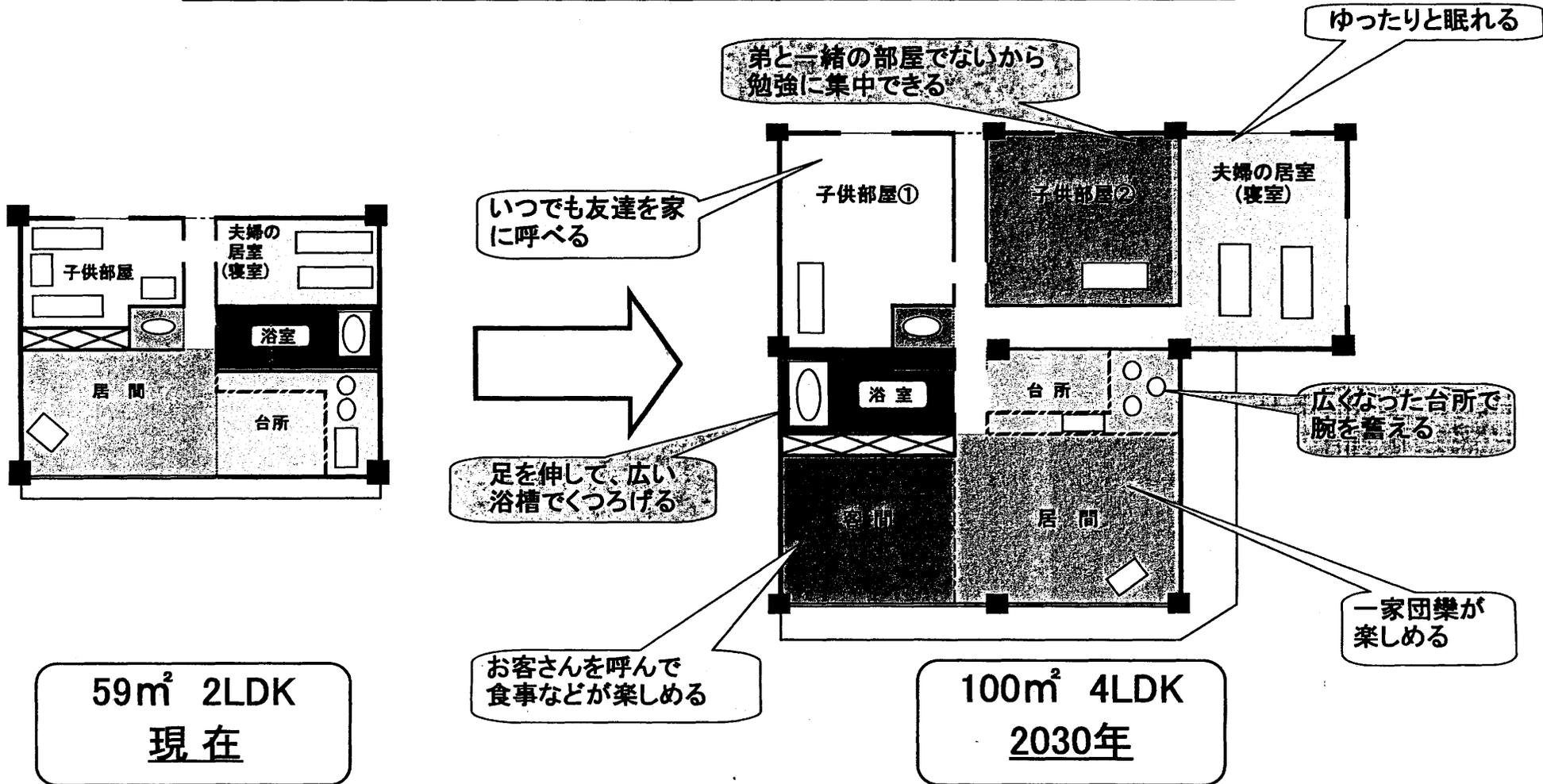
(人/人口千人当たり)



(注)  
日本の社会人のパートタイム学生数は、  
通信教育による学生数を計上

# 2030年には居住空間が拡大・4人家族で100㎡の借家も

土地や住宅などの資産について所有から利用へと促し、持ち家と貸家の区別がもはやなくなり、住み替えの自由度が増すことにより、



○1998年の全国の4人家族の借家1戸あたりの平均延べ面積は59㎡

○2030年の関東大都市圏の4人家族の借家1戸当たりの平均延べ面積を100㎡程度と見込むこともできる(2003年の関東大都市圏の持家1戸当たりの平均延べ面積は104㎡)